いにしえの響き・典雅な舞を堪能

重要無形文化財「雅楽」特別公演

10月４日、市制施行50周年記念事業・重要無形文化財「雅楽」特別公演が、宮内庁式部職楽部の皆さんによりホワイトキューブのアリーナ特設会場で開催されました。市内各小学校の５、６年生と中学生が対象の雅楽教室、そして市内外から詰めかけた観客を前に７曲が披露された午後の雅楽公演と、合わせて約4,800人の観客が、1300年前から連綿と伝わる雅楽の魅力に酔いしれました。

◀満員の観客席（雅楽公演）

管弦

管弦は、大陸系の雅楽器で演奏する器楽合奏です。

「平調音取」、「越殿楽残楽三返」、「陪臚」そして、雅楽器の伴奏で歌う『歌謡』の「催馬楽更衣」の４曲が演奏されました。

▲雅楽は日本最古の古典音楽で、「管弦」、「舞楽」、「歌謡」の三つの演奏形態があります。現在では宮内庁式部職楽部が伝承する雅楽が基準となっていて、その歴史は西暦701年にまでさかのぼります。

▲休憩時間には楽器を間近で見学

▲「管弦」演奏の様子　会場は静まりかえり、厳粛な雰囲気に包まれました。

雅楽公演を鑑賞した皆さんから

○こういうチャンスはなかなかないと思います。とても感激しました。

○宮中公演にも申し込んだことがありましたが、抽選にはずれて見ることができませんでした。地元で貴重な公演を鑑賞することができ、感激しています。

○衣装の色の組み合わせが素晴らしく、見たことのない楽器をじかに見ることができて良かったです。

○西暦７０１年以来の歴史を感じながら鑑賞することができました。

○うっとりと幻想の世界に浸ることができました。テレビではたまに見ますが、生で見ることができて夢のようです。

○雅楽はもう少し日本的なのかなと思いましたが、大陸系の色合いが濃かったのが意外でした。舞楽の舞いはゆるやかで、優雅でした。

▲1300年前の時代にタイムスリップしたかのように2,600人の観客は舞台に引き込まれていきました

▲「陵王」　中国・北斉の蘭陵王長恭は、容姿が美しかったので、厳しい仮面をつけて戦いに臨んだ故事により作られた曲といわれています。

▲「春庭花」　唐の玄宗皇帝が、春に花の咲くのが遅いことを憂い、楼上で一曲を奏すると、庭に百花が咲き乱れ、この曲を「春庭花」というようになったと伝えられています。

舞楽

舞楽は、音楽とともに奏する舞です。

中国系の器楽（唐楽）伴奏で舞う「春庭花」と「陵王」、朝鮮系の器楽（高麗楽）伴奏で舞う「納曽利」の３曲が演奏されました。

▲「納曽利」　高麗から伝わった舞曲。雌雄の龍が楽しげに遊ぶ姿をかたどったものといわれています。

雅楽教室

市内の小学校５、６年児童と中学校の全校生徒など約２、２００人を前に開催されました。

宮内庁式部職楽部の岩波主席楽長が、皇室の伝統文化となって代々伝えられてきた雅楽の歴史を説明し、雅楽で使用する楽器を実際に音を出させながら解説してくださいました。

また、管弦と舞楽それぞれ１曲ずつを実演していただき、小中学生たちは、文字通り「生きた教材」として雅楽を体感しました。

▲「唱歌」や「管弦」といった雅楽用語は、現代や西洋の音楽にもそのまま使われていることなども教えてくださいました。

雅楽教室を鑑賞した児童・生徒たちから

○音がものすごくきれい。ふだん聴かない音色でとても良かった。
（大平小５年）

○踊りのお面がすごかった。
（白川小５年）

○雅楽を聴くのは初めて。緊張したけど楽しかった。
（白一小６年）

○音楽の教科書にも載っていたけれど、生で見ると迫力が全然違う。
（白一小６年）

○初めて聴いた笛の音が伸びていてきれいだった。
（白川小６年）

○一生に一度しか鑑賞できないかもしれないので、見られてよかった。
（東中１年）

○舞楽「陵王」は、教科書で見るより迫力があって興味深かった。
（東中１年）

○迫力がすごかった。楽器の音がきれいで踊りも格好良かった。
（福岡中２年）

▲熱心に舞台に見入る小中学生たち